

2018年6月11日  
森ビル株式会社  
チームラボ

**森ビルとチームラボによる世界に類をみないデジタルアートミュージアム**  
**MORI Building DIGITAL ART MUSEUM: EPSON teamLab Borderless**  
**<2018年6月21日(木) オープン!!>**  
**さまよい、探索し、発見する、境界なく繋がっていく1つの世界**

森ビル株式会社と、チームラボが共同で運営する「MORI Building DIGITAL ART MUSEUM: EPSON teamLab Borderless」は、2018年6月21日(木)についてオープンします。

10,000㎡という圧倒的な巨大空間は、5つの世界で構成され、世界初公開作品を含む約50作品を展示します。

“Borderless”のコンセプトのもとに、展示作品は他の作品との境界がなく、部屋から出て通路を移動しはじめ、他の作品とコミュニケーションし、時には他の作品と融合します。また、作品と鑑賞者との境界もないため、人々はこの世界に没入し、さらには、自分と他者との境界すら連続的なものになっていくでしょう。境界のないアートでできた本施設は、鑑賞者が自らの身体を使って探索しながら、他者と共に新しい体験を創り出していき、これまでにない全く新しいミュージアムとなります。



森ビルとチームラボがタッグを組み、世界に類のないミュージアムを創り出すことで、2020年そしてその先に向けて、国際都市・東京の磁力向上に貢献します。

**【本件に関するお問い合わせ先】**

teamLab Borderless 広報事務局 (株式会社サニーサイドアップ内)

担当：山口、藤田、高橋、蛭川、武内

Tel: 03-6894-3200 Fax: 03-5413-3050 E-mail: borderless@ssu.co.jp

## ■ 10,000 m<sup>2</sup>の広大な空間を構成する5つの世界

「EPSON teamLab Borderless」は、“5つの世界”で構成されます。

### 1. Borderless World

人は自らの身体で自由に動き、他者と関係性を持ち、身体で世界を認識します。そして身体は時間を持ち、脳内で考えは、同じ脳内の他の考えと境界が曖昧なまま影響を受け合い、時には混ざり合います。

アートも、部屋から出て自ら動き出し、人々と関係性を持ち、身体と同じ時間の流れを持ちます。そして、作品は、他の作品とコミュニケーションし、影響を受け合い、時には混ざり合います。そのような作品群による、境界のない1つの世界が『チームラボボーダレス』です。

人々は、自らの身体でその世界に迷い込みます。そして、その境界のない作品群は、人々の存在によって変化します。その1つの世界に、他者と共に身体ごと没入し、溶け込んでいくことで、自分と他者との境界が連続的なものになっていくことでしょう。そして私たちと世界との、境界のない新しい関係を模索していくのです。



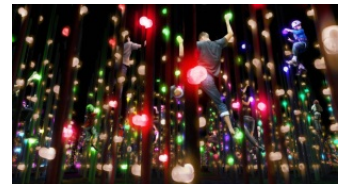
Untitled ※新作



Untitled ※新作

### 2. チームラボアスレチックス 運動の森

「身体で世界を捉え、世界を立体的に考える」をコンセプトに、脳の海馬を成長させ、空間認識能力を鍛える新しい「創造的運動空間」です。複雑で立体的な空間で、強い身体性を伴って、身体ごとインタラクティブな世界に没入します。



光の3Dボルダリング /  
Three-dimensional Light Bouldering  
teamLab, 2018-, Interactive Digital Installation,  
Sound: DAISHI DANCE

### 3. 学ぶ！未来の遊園地

「共同的な創造性、共創(きょうそう)」をコンセプトにした教育的なプロジェクトであり、他者と共に世界を自由に創造することを楽しむ「遊園地」です。



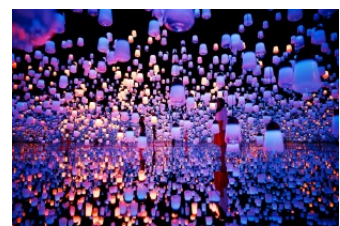
お絵かき水族館 / Sketch Aquarium  
teamLab, 2013-, Interactive Digital Installation, Sound:  
Hideaki Takahashi, teamLab

### 4. ランプの森

人がランプの近くで立ち止まり、しばらくじっとしていると、最も近いランプが強く輝き音色を響かせます。

そしてそのランプの光は、最も近い二つのランプに伝播する。伝播したランプの光は、それぞれ同じように強く輝き音色を響かせながら、最も近いランプに伝播し、同じように連続していきます。

伝播していく光は、必ず、全てのランプを一度だけ強く輝かせ、必ずはじめのランプに戻ってきます。つまり、人に呼応したランプの光は、二つに分かれ、それぞれ全てのランプを1度だけ通る一本の光のラインとなり、最後に、起点となった最初のランプで出会います。



Forest of Resonating Lamps - One Stroke  
teamLab, 2016, Interactive Digital Installation,  
Murano Glass, LED, Endless

### 5. EN TEA HOUSE

一服の茶を点てると、茶に花々が生まれ咲いていく。花々は茶がある限り無限に咲いていく。器の中の茶は、花々が咲き続ける無限の世界となる。その無限に広がる世界をそのまま飲むティーハウスです。



小さきものの中にある無限の宇宙に咲く花々 /  
Flowers Bloom in an Infinite Universe inside a Teacup  
teamLab, 2016, Interactive Digital Installation, Endless,  
Sound: Hideaki Takahashi

## ■事業者からのメッセージ



### 森ビル株式会社 代表取締役社長 辻 慎吾

首都・東京が国際都市間競争を勝ち抜き、世界から人・モノ・金・情報を惹きつけるためには、「都市の磁力(総合力)」を高めることが不可欠です。東京には経済力を始めとする数々の強みがある一方で、文化やアートのが課題の1つであることは明らかです。

森ビルは様々な都市機能が高度に複合した都市づくりを推進しています。1986年のサントリーホール(アークヒルズ)を始め、都市づくりに積極的に文化施設を組み込み、様々な文化・交流イベントを仕掛けてきました。六本木ヒルズでは森美術館を立ち上げて、東京から世界に向けて「現代アート」を発信し続けています。「現代アート」は、今の時代を最も先鋭的に映し出すものです。そして、デジタルアートは、テクノロジーの飛躍的な進化によって可能となった、まさに「現代アートの中の現代アート」と言えるでしょう。

また、当社は長年にわたり、都市を舞台に「学び」の場も提供してきました。六本木ヒルズの「キッズワークショップ」などには、年間延べ2万人もの子どもたちが参加しています。今の子供たちに欠けているのは、教室での平面的で受動的な「教育」ではなく、実世界での立体的で能動的な「学び」です。デジタルアートの世界を探索することで、物事を立体的に捉える力や想像力を養ってほしいと願っています。

2020年を目前に控え、チームラボと森ビルがタッグを組んで生み出す、これまでに無い、全く新しいデジタルアートの世界にぜひご期待ください。



### チームラボ 代表 猪子 寿之

デジタルアートは物質から解放されました。物質でできたモノにこめられていた、創り手の思いや考えは、人々(来場者)の体験そのものにこめていくことができるのかもしれませんが。

モノと違い、人は自らの身体で自由に動き、他者と関係性を持ち、身体で世界を認識しています。そして身体は時間を持ち、脳内で考えは、同じ脳内の他の考えと境界が曖昧なまま影響を受け合い、時には混ざり合っています。

もし、アーティストが人々の体験そのものに、思いや考えをこめることができるならば、人と同様に、アート作品も定位置に留まらず自ら移動し、人々と関係性を持ち、身体と同じ時間の流れを持つ。そして、他の作品と境界が曖昧なまま影響を受け合い、時には混ざり合う。そのような作品群による、境界のない1つの世界、『チームラボボーダレス』を創ろう。

人々は、順路もなく自由に歩き回り、その世界に迷い込んでいきます。そして、その境界のない作品群は、人々の存在によって変化していきます。その1つの世界に他者と共に身体ごと没入し、溶け込んでいくことで、自分と他者との曖昧な境界、そして私たちと世界との境界のない新しい関係を模索していくのです。



